

～ 5つの失敗原因とその対策を知らずして

御社のDXは成功しない～

一番金がかからないDX成功方法

講師：(株) トータルマネジメントシステム研究所 代表取締役 角川 真也 (つのかわ まさや)

DXの実態

『失われた30年』による日本の国力低下要因の一つに、先進国中最下位の労働生産性があります。法制化された『働き方改革』も、生産性向上なしには成立しません。そこで現在『DX』が国策として強力推進されていますが、**わずか14%の会社しかDXに成功していないのが実態**です(他の先進国は成功率30%)。またDXに要する巨額の投資と膨大なマンパワーに経営者が尻込みした結果、**実に95%の日本企業がDXに未着手**です(『DXレポート2 中間とりまとめ』経済産業省)。このままでは日本(企業)は『2025年の崖』から転落し、世界経済の二軍と化してしまいます。

DX失敗原因ワースト5

- ① プロジェクトの実施内容・推進方法が従業員に丸投げ状態。
- ② DXに必要なデータが整備されていない。
- ③ ITツール導入のみで組織マネジメント改革は未実施。
- ④ 従業員の同意と納得がなく、協力が得られない。
- ⑤ 社内にIT人材が不足している。

上記①～⑤の結果、御社のDX推進プロジェクトはシステムベンダーの言いなりとなり、期待したような成果は上がりません。その結果、プロジェクトに投入した膨大な経営資源がムダになってしまいます。

DXを成功させるには?

DXを成功させるには、科学的な組織マネジメントが必要不可欠です。そこで当セミナーでは、ノウハウ入手料と人件費のみでできる**組織マネジメントシステムの自社構築方法**についてお教えします。上記①～⑤のすべてが解決でき、御社のDX成功に大きく寄与します。

DXは『攻め(売上拡大)』『守り(生産性向上・コスト削減)』に大別されますが、当セミナーでは**間接業務(事務所)の生産性向上**について豊富な経験と実績を持つ講師が分かりやすく解説します。経営そのものであるDXに成功すれば生産性が大幅に向上し、御社の未来を明るくものにします。DXブームに安易に飛びつき失敗する前に、失敗事例から導き出した『DX成功の決め手』を当セミナーで学んでみませんか?

当セミナーで習得できるノウハウ

DX成功までのプロセス、数値データに基づく科学的な組織マネジメントの実現方法、間接業務の生産性向上方法、現状の「見える」化手法、逆転の発想によるムダ取り手法、業務マニュアルによる生産性向上手法

ノウハウの実施に必要なもの

- ①社内ネットワーク(LAN)
- ②マンパワー
- ③従業員アンケートの実施

■ 受講対象者

DXを決断できないでいる経営者(会社規模不問)

何から着手したら良いのか分からないDX推進事務局および業務改革部門の方

DX失敗原因ワースト5(下記)に該当する会社の方

間接業務の生産性向上方法に興味のある管理職(部署不問)

■ セミナー内容

1. DX はなぜ失敗するのか?

- 1) 御社の存続を左右する DX
- 2) DX の歴史
- 3) 講師が経験した失敗事例紹介
- 4) DX 失敗原因ワースト 5

2. DX の成功法則

- 1) 失敗から学ぶ DX 成功の秘訣
- 2) 兵器が変われば戦法も変わる
- 3) 従業員の「同意と納得」を得るには?
- 4) DX の準備 「見える化」 「最小化」 「標準化」

3. 部署業務の現状を「見える化」する

- 1) 現状の整理・整頓方法
- 2) 数値データ（時間・金額）による「見える化」手法

4. DX ではできない業務の「ムダ取り」

- 1) 従来の「ムダ取り」はなぜ失敗するのか?
- 2) ムダを探すな、〇〇〇〇〇を探せ!（〇〇〇〇〇は講義中に開示）

5. 業務の標準化の 3 大ポイント

- 1) 『マニュアルの三重苦』とその対策
- 2) 『マニュアルのジレンマ』とその対策
- 3) 業務マニュアルは生産性向上ツール

6. 科学的組織マネジメントとその効果

- 1) 組織マネジメントで金を稼ぐ方法
- 2) 事例紹介（10名の部署で年間3,500万円のコスト削減!!）
- 3) 科学的組織マネジメントで実現する「三方よし」

7. 質疑応答

【講師略歴】 中堅部材メーカーにおいて社内コンサルとして間接業務の「見える化」「最小化（ムダ取り＋効率化）」「標準化」手法を全社展開、生産性を 300%向上させ会社倒産の危機を救う。独立後は『組織マネジメントシステム（ERP）』自社構築による間接業務の生産性向上手法普及に専従。数値データ（時間・金額）を駆使した科学的マネジメント手法による組織パフォーマンス向上を得意とする（「TMS 研」で HP 検索可）。セミナー開催実績：121 回/11 年、受講者累計：2,000 名以上、受講者評価：平均 77.8 点、著書『R&D 部門の働き方改革とその進め方』（技術情報協会刊・共著）

■ **開催日時** 御社のご希望の日時（4 時間）

■ **聴講方法** WEB セミナー（zoom 使用）

■ **受講料** 59,800 円/人（消費税・教材の送料含む）

■ **主催** (株)トータルマネジメントシステム研究所（「TMS 研」で HP を検索できます）